

Robert Ulshöfer 研究文献目録

土山 和久

はじめに

本研究文献目録は、ドイツ国語教授学研究个体史を究明する一環として、第二次世界大戦後の（旧西）ドイツ国語教授学研究において、70年代の終わりまで、指導的な役割を果たしてきたRobert Ulshöfer（ロベルト・ウルスヘーファー；1910－）の研究の足跡をたどることを試みるものである。

Ulshöferは、1946年から1975年まで、バーデン・ヴュルテムベルク州の大学町チュービンゲンの試補教員¹ 養成講座ドイツ語科主任、1948年から1975年まで同講座長および教育学主任として公職に就き、それを退いた後も、現在に至るまで中等国語教科書の編纂に携わっている。Ulshöferの名前は、わが国において知られることはほとんどなかったが、ドイツの国語教授学研究において与えてきた影響力の大きさは、1991年に刊行された彼の自伝的著作『私のドイツ語教育。一つの教授学モデルの歴史と将来のバースペクティヴ(Mein Deutschunterricht. Geschichte und Zukunftsperspektiven eines didaktischen Modells; Peter Lang 1991, Frankfurt/M., Bern, New York, paris)』²の背表紙に付された、次のような「著者紹介」から端的に窺うことができよう。

本書の著者は、あるときは“ドイツ語科教育の法王”と呼ばれ、またあるときには、復古的—資本主義的ドイツ語科教育の“イデオロギーの代表者”として非難された、1945年以後のドイツ語科教育およびギムナジウム教育学の歴史におけるキー・パーソンである。（前掲書、背表紙の「著者紹介」より引用。）

この彼の全体掌握的な存在性を特徴づける評価を見ても、彼のおよそ50年間に及ぶ研究の足跡は、そして彼をめぐる賛否両論は、第二次世界大戦後のドイツ国語教授学研究の展開を究明する上で、一つの眺望を与えてくれるように思われる。

1 従来のギムナジウムの教員養成は、大学で基礎研究として教科内容学の研究をした後に、第一次国家試験を受験し、それに合格した者が試補教員（見習い教師）として2年以上の実践的養成を経て、第二次国家試験を受験する。

2 同書は、Joachim S. Hohmannの編による「ドイツ語科教育の歴史」シリーズの第5巻として刊行されたものである。

本稿は、「Robert Ulshöfer 研究文献目録」と題し、彼の編著書および論文を概観的に一覧することを目的とする。

資料の整理にあたっては、前掲書第9章の「著作・刊行物一覧」を参照しながら、Ulshöfer の研究を、国語科教育（ドイツ語科教育）に関わるものと、ギムナジウム教育学に関わるものの二つに大別し、それぞれに対して、編著書と寄稿論文の項目を設け、内容的にその両者に関連するものは、国語科教育の中に算入した。また、各事項の下でまとめられた著作・論文に対して、便宜上通し番号を付している。尚、既に現物確認済みの資料には、基本的に○印を付し、雑誌論文等のシリーズものへの寄稿論文には、その一覧表の末尾に現物確認状況を添えた。

本編：Robert Ulshöfer 研究文献目録

学位論文：「ドイツ・ロマン主義期の戯曲の理論」

(*Die Theorie des Dramas in der deutschen Romantik*, In: *Neue deutsche Forschung*, Bd. 29, Berlin: Junker und Dünhaupt, 1935)

1. 国語科教育（ドイツ語科教育）に関するもの

1. 1. 国語科教育に関する編著書

<表1> Ulshöferの国語科教育に関する編著書一覧

◎1. 『国語科教育法』；全三巻（単著）

(*Methodik des Deutschunterrichts* ; Stuttgart: Klett, seit 1952)

- | | | |
|--------------------------|---------|--------------------|
| 巻1：「初級段階」(Unterstufe) | 初版1964年 | 第9版1979年 |
| 巻2：「中級段階Ⅰ」(MittelstufeⅠ) | 初版1952年 | 改訂版1965年 第11版1980年 |
| 巻3：「中級段階Ⅱ」(MittelstufeⅡ) | 初版1957年 | 改訂版1974年 |
| | 改訂第3版 | 1981年 |

◎2. 『アビトゥア認定試験のテーマ 1958－1964』（編著）

(*Themen der Reifeprüfungsaufsätze 1958-1964*; Beiheft zu Jahrgang 17/1965 von "Der Deutschunterricht")

◎ 3. 『協同的授業の理論と実践』（編著）

(Theorie und Praxis des kooperativen Unterrichts; Stuttgart: Klett, 1971, 2. Aufl. 1975)

同書は、チュービンゲンの試補教員研究講座の研究と実験の成果をまとめたものであり、「協同的授業」研究プロジェクトの総論・基礎理論を担う「第1部：協同的授業の教授学の基本的特徴(Grundzüge der Didaktik des kooperativen Unterrichts)」1巻と、次のような各教科の実践例を示す「第2部」8巻の計9巻から成る。

1. プロテスタントおよびカトリックの宗教理論
(Evangelische und katholische ReligionsLehre; Hrsg. von Gerhard Martin)
2. ド イ ツ 語
(Deutsch; Hrsg. von Annemarie Kleiner und Siegfried Weinmann)
3. 外 国 語
(Neue Sprachen; Hrsg. von Werner Arnord und Peter Pasch)
4. 古 典 語
(Alte Sprachen; Hrsg. von Thomas Meyer und Hermann Steintal)
5. 歴 史 と 地 学
(Geschichte und Erdkunde;
Hrsg. von Herbert Raisch und Heinz-Dieter Schmied)
6. 数 学 と 物 理
(Mathematik und Physik; Hrsg. von August Schmid und Helmut Streicher)
7. 生 物 と 体 育
(Biologie und Leibesübungen; Hrsg. von Hans Dassel und Udo Spohn)
8. 音 楽
(Musik; Hrsg. von Felix Groß)

そして、プロジェクトの代表者であったUlshöferは第1部の編集にあたっている。

◎ 4. 『国語科教育における政治教育－復古と革命の向こう側で。』

協同的かつ社会政治的行動を修得するためのテーゼと授業モデル』（単著）

(Politische Bildung im Deutschunterricht jenseits von Restauration und Revolution. Theorie und Unterrichtsmodelle zur Einübung kooperativen und soziopolitischen Verhaltens; Freiburg: Herderbücherei 9029, 1975)

◎ 5. 『政治教育－あらゆる教科の任務。』

社会政治教育に対する新しい超教科的総合構想』（編著）

(Politische Bildung - ein Auftrag aller Fächer. Ein neues fachübergreifendes Gesamtkonzept für die gesellschaftspolitische Erziehung; Freiburg: Herderbücherei Nr. 9023, 1975)

◎ 6. 『開かれた授業の実践. 新しい協同的教授学の構想.

—教科の授業に対する応用モデル』 (編著)

(Praxis des offenen Unterrichts. Das Konzept einer kooperativen Didaktik. Mit Anwendungsmodellen für den Fachunterricht; Freiburg: Herderbücherei Nr. 9039, 1976)

上二つの編著書は、政治教育センターとの協同研究の成果をまとめたものであり、いずれもTheo Götzと共編のものである。Ulshöferは、前者に対して次の2篇の論文を寄稿している。

- ・「あらゆる教科の課題としての政治教育。問題，学習目標，学習内容，方法，誤った方法」 (Politische Bildung und Erziehung als Aufgabe aller Fächer. Probleme. Lernziele. Lerninhalte. Wege. Irrwege)
- ・「ドイツ語科における社会理論，レールプラン編成，授業実践の相互連関」 (Das Wechselverhältnis von Gesellschaftstheorie, Lehrplangestaltung, Unterrichtspraxis im Fach Deutsch)

また、後者に対しても次の2篇の論文を寄稿している。

- ・「開かれた授業の実践. 協同的—コミュニケーション的教授学に基づいて」 (Praxis des offenen Unterrichts. Auf der Grundlage einer kooperativ-kommunikativen Didaktik)
- ・「開かれたドイツ語の授業. 協同的教授学对新実証主義・似非解放的教授学」 (Der offene Deutschunterricht. Kooperative contra neopositivistische und pseudoemanzipatorische Didaktik)

◎ 7. 『ドイツ語の授業の中のマルクス主義』 (編著)

(Marxismus im Deutschunterricht; Stuttgart Berlin Köln Mainz: Kohlhammer 1978)

同書には、次の2篇を寄稿している

- ・「問題設定への導入」 (Einführung in die Problemstellung)
- ・「労働世界からのテキスト。第9/10学年の教科課程。マルクス主義的に方向づけられたモデルと比較する形で、開かれたモデルを提示」 (Texte aus der Arbeitswelt. Ein Lehrgang in Klasse 9/10. Ein offenes Modelle im Vergleich zu marxistisch-orientierten Modellen)

◎ 8. 『私のドイツ語教育。一つの教授学モデルの歴史と

将来のバースペクティブ』 (単著)

(Mein Deutschunterricht. Geschichte und Zukunftsperspektiven eines didaktischen Modells;
Peter Lang 1991, Frankfurt/M., Bern, New York, paris)

1. 2. 国語科教育に関する寄稿論文

1. 2. 1. 雑誌『国語科教育。その実践と学術的基盤に対する寄与』

(*Der Deutschunterricht. Beiträge zu seiner Praxis und wissenschaftlichen Grundlagen*; 1948-)

同誌はUlshöferによって1948年に Klett社から創刊 (48年度と49年度は合本) され、それぞれの号は一つのテーマに関する特集号の形をとり、隔月で刊行されている。1950年までは、Ulshöferが単独で編集にあたっていたが、1951年以降は、Fritz Martin, Friedrich Maurer, Gerhard Storzが編集協力者に加わり (70年代には、MaurerとStorzに代わって、Klaus BaumgärtnerとHeinz-Dieter Weberがその任に就いた)、年間計6号刊行されるシリーズの4号分に対して、Ulshöferが編集責任者を務めた。そして、1980年の第6号をもって、彼はその任から離れた。彼が編集責任者を努めた号のテーマおよびその年度・号数は、次に示すとおりであり、それらに対して編集者による問題設定、基調提案、寄稿論文の解題が巻頭でなされている。

<表2> Ulshöferが編集責任者を努めた雑誌『国語科教育』各号のテーマ一覧

第1巻(1948-49)

- 第1号：現状と可能性(Lage und Möglichkeiten)
- 第2/3号：詩に至る方法(Wege zum Gedicht)
- 第4号：言語学と文体形成(Sprachkunde und Stilbildung)
- 第5号：作文教育Ⅰ(AufsatzerziehungⅠ)
- 第6号：作文教育Ⅱ(AufsatzerziehungⅡ)
- 第7号：古典主義期の詩との出会い(Begegnung mit klassischer Dichtung)
- 第8号：新旧の努力(Neue und alte Bestrebungen)

第2巻(1950)

- 第1/2号：作文教育Ⅲ(AufsatzerziehungⅢ)
- 第3号：詩に至る方法Ⅱ(Wege zum GedichtⅡ)

第3巻(1951)

第4/5号：ドイツ語の言語教育に関して(Zur deutschen Spracherziehung)

第6号：文体考察(Stilbetrachtungen)

第4巻(1952)

第1号：授業におけるドラマⅠ(Das Drama im UnterrichtⅠ)

第3号：作文教育Ⅳ(AufsatzerziehungⅣ)

第4号：どのように私は読本を用いて学習をするか

(Wie arbeite ich mit dem Lesebuch?)

第6号：学校における散文(Die Prosadichtung in der Schule)

第5巻(1953)

第1号：19世紀のドイツ小説Ⅱ(Deutsche Novellen des 19.JahrhundertsⅡ)

第3号：学校における現代の抒情詩Ⅰ(Lyrik der Gegenwart in der SchuleⅠ)

第4号：学校における現代の抒情詩Ⅱ(Lyrik der Gegenwart in der SchuleⅡ)

第6号：学校における中世の文芸(Die mittelalterliche Dichtung in der Schule)

第6巻(1954)

第1号：古典語学校ではない学校で行われるドイツ語の授業におけるギリシャ
古典 (Die griechische Antike im Deutschunterricht nicht altsprachlicher
höherer Schulen)

第3号：授業におけるドラマⅡ(Das Drama im UnterrichtⅡ)

第4号：ドイツ語の言語教育に関してⅡ(Zur deutschen SpracherziehungⅡ)

第6号：学校における現代の抒情詩Ⅲ(Lyrik der Gegenwart in der SchuleⅢ)

第7巻(1955)

第1号：学校における現代の散文Ⅱ(Prosa der Gegenwart in der SchuleⅡ)

第3号：ドイツ語正書法の改革(Die deutsche Rechtschreibreform)

第4号：ドイツ語の授業における芸術教育(Kunsterziehung im Deutschunterricht)

第5号：どのように私は読本を用いて学習をするかⅡ

(Wie arbeite ich mit dem Lesebuch?Ⅱ)

第6号：ドイツ語の授業における芸術教育Ⅱ(Kunsterziehung im Deutschunterricht Ⅱ)

第8巻(1956)

第1号：学校における中世の文芸Ⅱ(Die mittelalterliche Dichtung in der Schule Ⅱ)

第3号：19世紀のドイツ語小説Ⅲ(Deutsche Novellen des 19.Jahrhunderts Ⅲ)

第4号：学校における物語詩(Die Ballade in der Schule)

第6号：授業におけるメルヒェン(Das Märchen im Unterricht)

第9巻(1957)

第1号：授業における短編Ⅰ(Die Kurzgeschichte im Unterricht Ⅰ)

第3号：学校における中世の文芸Ⅲ(Die mittelalterliche Dichtung in der Schule Ⅲ)

第4号：個人的読書の案内Ⅰ－優れた青年図書

(Hinführung zur Privatlektüre Ⅰ. Das gute Jugendbuch)

第6号：作文教育Ⅴ(Aufsatzerziehung Ⅴ)

第10巻(1958)

第1号：言語論Ⅰ(Sprachlehre Ⅰ)

第3号：ドイツ語の授業における映画と放送劇Ⅰ

(Film und Hörspiel im Deutschunterricht Ⅰ)

第5号：現代の文芸(Dichtung der Gegenwart Ⅰ)

第6号：授業における短編Ⅱ(Die Kurzgeschichte im Unterricht Ⅱ)

第11巻(1959)

第1号：言語論Ⅱ(Sprachlehre Ⅱ)

第3号：授業における18世紀(Das 18. Jahrhundert im Unterricht)

第4号：授業における小説Ⅰ(Der Roman im Unterricht Ⅰ)

第6号：個人的読書の案内Ⅱ－優れた青年図書

(Hinführung zur Privatlektüre Ⅱ. Das gute Jugendbuch)

第12巻(1960)

第1号：ドイツ語の授業の基本的問題Ⅰ(Grundfragen des Deutschunterrichts Ⅰ)

第3号：現代の文芸Ⅱ(Dichtung der Gegenwart Ⅱ)

第4号：形成の試みⅠ (Gestaltungsversuche Ⅰ)

第6号：ドイツ語の授業における映画と放送劇Ⅱ

(Film und Hörspiel im Deutschunterricht Ⅱ)

第13巻(1961)

第1号：ドイツ語の授業における民衆文芸と民衆の風俗

(Volksdichtung und Volksbrauch im Deutschunterricht)

第3号：言語論Ⅲ (Sprachlehre Ⅲ)

第4号：授業におけるドラマⅢ (Das Drama im Unterricht Ⅲ)

第6号：個人的読書の案内Ⅲ－優れた青年図書

(Hinführung zur Privatlektüre Ⅲ. Das gute Jugendbuch)

第14巻(1962)

第1号：授業における小説Ⅱ (Der Roman im Unterricht Ⅱ)

第3号：学校における現代の抒情詩Ⅳ (Lyrik der Gegenwart in der Schule Ⅳ)

第4号：作文教育Ⅵ－批判と深化 (Aufsatzerziehung Ⅵ. Kritik und Vertiefung)

第5号：学校における愉快な文芸Ⅰ (Heitere Dichtung in der Schule Ⅰ)

第6号：中世初期の文芸における人間

(Der Mensch in der Dichtung des hohen Mittelalters)

第15巻(1963)

第1号：言語論と言語理解 (Sprachlehre und Sprachverständnis)

第2号：ドイツ語の授業における民衆文芸と民衆の風俗Ⅱ

(Volksdichtung und Volksbrauch im Deutschunterricht Ⅱ)

第3号：学校における現代の散文Ⅲ (Prosa der Gegenwart in der Schule Ⅲ)

第4号：ドイツ語の授業における宗教文学と、文芸のキリスト教的評価Ⅰ

(Religiöse Dichtung und christliche Wertung der Dichtung im Deutschunterricht Ⅰ)

第5号：作文教育Ⅶ (Aufsatzerziehung Ⅶ)

第16巻(1964)

第1号：ドイツ語の授業の基本的問題Ⅱ (Grundfragen des Deutschunterrichts Ⅱ)

第2号：授業における小説Ⅲ (Der Roman im Unterricht Ⅲ)

第3号：授業におけるドラマⅣ(Das Drama im UnterrichtⅣ)

第5号：ドイツ語の授業における宗教文学と、文芸のキリスト教的評価Ⅱ
(Religiöse Dichtung und christliche Wertung der Dichtung im Deutsch-
unterricht Ⅱ)

第17巻(1965)

第1号：作文教育Ⅷ(AufsatzerziehungⅧ)

第3号：ドイツ語の授業の基本的問題Ⅲ(Grundfragen des DeutschunterrichtsⅢ)

第4号：学校における現代の抒情詩Ⅴ(Lyrik der Gegenwart in der SchuleⅤ)

第6号：ドイツ語の授業における技術時代の言語と文学Ⅰ
(Sprache und Literatur des technischen Zeitalters im Deutschunterricht Ⅰ)

第18巻(1966)

第1号：学校における劇場－放送劇－テレビドラマⅠ
(Theater - Hörspiel - Fernsehspiel in der Schule Ⅰ)

第2号：学校における現代文学Ⅰ(Gegenwartsliteratur in der Schule Ⅰ)

第3号：学校における愉快的文芸Ⅱ(Heitere Dichtung in der Schule Ⅱ)

第4号：読本Ⅰ(Das Lesebuch Ⅰ)

第5号：ドイツ語の授業における文法と文体論
(Grammatik und Stilistik im Deutschunterricht)

第19巻(1967)

第1号：ドイツ語の授業の基本的問題Ⅳ(Grundfragen des DeutschunterrichtsⅣ)

第3号：作文教育Ⅸ(AufsatzerziehungⅨ)

第4号：読書の提案－授業モデル(Lektürevorschläge - Modelle für den Unterricht)

第6号：生産的思考と美的創造的形成
(Produktives Denken und schöpferisches Gestalten)

第20巻(1968)

第1号：授業における小説Ⅳ(Der Roman im UnterrichtⅣ)

第3号：授業におけるドラマⅤ(Das Drama im UnterrichtⅤ)

第4号：ドイツ語の授業における基本概念Ⅰ
(Grundbegriffe im Deutschunterricht Ⅰ)

第5号：ドイツ語の授業における技術時代の言語と文学Ⅱ

(Sprache und Literatur des technischen Zeitalters im Deutschunterricht Ⅱ)

第6号：読本Ⅱ(Das Lesebuch Ⅱ)

第21巻(1969)

第1号：ドイツ語の授業におけるマスメディアと劇場

(Massenmedien und Theater im Deutschunterricht)

第2号：20世紀の文学と上級段階の授業の改革

(Literatur des 20. Jahrhunderts und Reform des Oberstufenunterrichts)

第4号：言語社会学・言語教育・言語理論

(Sprachsoziologie, Sprachunterricht, Sprachtheorie)

第6号：ドイツ語の授業における社会的授業形式

(Soziale Unterrichtsformen im Deutschunterricht)

第22巻(1970)

第1号：新しい言語形式－それを解明する新しい方法

(Neue Sprachformen - Neue Methoden ihrer Erschließung)

第3号：ドイツ語の授業の基本的問題Ⅴ(Grundfragen des Deutschunterrichts Ⅴ)

第5号：文字を用いた学習(Schriftliches Arbeiten)

第6号：言語社会学・言語教授学・言語教育

(Sprachsoziologie, Sprachdidaktik, Sprachunterricht)

第23巻(1971)

第1号：現代文学と学校における文学教育の問題

(Gegenwartsliteratur und Problem der literarischen Bildung in der Schule)

第2号：文芸社会学－社会学的文学考察

(Literatursoziologie - Soziologische Literaturbetrachtung)

第4号：ドイツ語の授業におけるコース・システムと社会的授業形式

(Kurssystem und soziale Unterrichtsformen im Deutschunterricht)

第5号：学校における劇場－放送劇－テレビドラマⅡ

(Theater - Hörspiel - Fernsehspiel in der Schule Ⅱ)

- 第6号：ドイツ語の授業における基本概念Ⅱ
(Grundbegriffe im Deutschunterricht Ⅱ)

第24巻(1972)

- 第1号：言語練習と言語分析－文法とテキストタイプの理論
(Sprachübungen, Sprachanalyse. Theorie der Grammatik und der Textsorten)
- 第2号：ドイツ語の授業における政治教育Ⅰ
(Politische Bildung im Deutschunterricht Ⅰ)
- 第3号：文法・意味論・社会言語学・テキスト言語学
(Grammatik, Semantik, Soziolinguistik, Textlinguistik)
- 第5号：ドイツ語の授業における政治教育Ⅱ
(Politische Bildung im Deutschunterricht Ⅱ)
- 第6号：文芸社会学－社会学的文学考察Ⅱ
(Literatursoziologie - Soziologische Literaturbetrachtung Ⅱ)

第25巻(1973)

- 第1号：テキスト分析－解釈方法(Textanalyse. Interpretationsmethoden)
- 第2号：ドイツ語の授業における社会批判的文学
(Gesellschaftskritische Literatur im Deutschunterricht)
- 第4号：進路指針段階とゲザムトシューレにおけるドイツ語の授業Ⅰ
(Der Deutschunterricht auf der Orientierungsstufe und in der Gesamtschule Ⅰ)
- 第5号：メディア教授学Ⅰ(Mediendidaktik Ⅰ)
- 第6号：言語論と文法の授業Ⅰ(Sprachtheorie und Grammatikunterricht Ⅰ)

第26巻(1974)

- 第1号：文字を用いた学習Ⅱ(Schriftliches Arbeiten Ⅱ)
- 第2号：言語論と文法の授業Ⅱ(Sprachtheorie und Grammatikunterricht Ⅱ)
- 第4号：ゼクンダ段階Ⅱにおける文学の授業
(Literaturunterricht auf der Sekundarstufe Ⅱ)
- 第5号：青年図書の新しい傾向－個人的読書案内Ⅰ
(Neue Tendenzen im Jugendbuch. Hinführung zur Privatlektüre Ⅰ)

第27巻(1975)

第1号：青年図書の新しい傾向－個人的読書案内Ⅱ

(Neue Tendenzen im Jugendbuch. Hinführung zur PrivatlektüreⅡ)

第2号：論理学・修辞学・論証の理論(Logik, Rhetorik, Argumentationslehre)

第4号：改革された上級段階におけるドイツ語の授業

(Der Deutschunterricht auf der reformierten Oberstufe)

第5号：青年図書の新しい傾向－個人的読書案内Ⅲ

(Neue Tendenzen im Jugendbuch. Hinführung zur PrivatlektüreⅢ)

第28巻(1976)

第1号：第5/6学年（進路指針段階）におけるドイツ語の授業Ⅰ

(Der Deutschunterricht im 5. und 6. Schuljahr(Orientierungsstufe)Ⅰ)

第3号：第5/6学年（進路指針段階）におけるドイツ語の授業Ⅱ

(Der Deutschunterricht im 5. und 6. Schuljahr(Orientierungsstufe)Ⅱ)

第4号：論理学・修辞学・論証の理論Ⅱ(Logik, Rhetorik, ArgumentationslehreⅡ)

第5号：読み物の提案Ⅰ(LekturvorschlägeⅠ)

第6号：読み物の提案Ⅱ(LekturvorschlägeⅡ)

第29巻(1977)

第1号：言語論と文法の授業Ⅲ(Sprachtheorie und GrammatikunterrichtⅢ)

第3号：改革された上級段階におけるドイツ語の授業Ⅲ

(Der Deutschunterricht auf der reformierten OberstufeⅢ)

第5号：メディア教授学Ⅱ(MediendidaktikⅡ)

第30巻(1978)

第1号：論理学・修辞学・論証の理論Ⅲ(Logik, Rhetorik, ArgumentationslehreⅢ)

第3号：ゼクンダ段階Ⅰにおけるドイツ語の授業－論争中の教科

(Der Deutschunterricht auf der SekundarstufeⅠ. Ein Fach in der Kontroverse)

第4号：第4学年のドイツ語の授業－次の学校へ移行するときに生じる問題

(Der Deutschunterricht im vierten Schuljahr - Probleme des Übergangs in die weiterführenden Schulen)

第5号：ゼクンダ段階Ⅰにおける文法の授業とテキスト作業
(Grammatikunterricht und Textarbeit auf der Sekundarstufe I)

第31巻(1979)

第1号：ゼクンダ段階Ⅰにおける口頭および文字による活動－統合的ドイツ語教育の理論と実践に対する寄与
(Mündliches und schriftliches Arbeiten auf Sekundarstufe I. Ein Beitrag zur Theorie und Praxis des verbundenen Deutschunterrichts)

第4号：ゼクンダ段階Ⅰ・Ⅱにおける文学の授業のモデル
(Modelle zum Literaturunterricht auf Sekundarstufe I und II)

第32巻(1980)

第1号：言語を用いた試み－言語教育における試み
(Versuche mit Sprache. Versuche im Sprachunterricht)

第6号：ドイツ語の授業における集積と、ドイツ語の授業をめぐる集積
(Konzentration im und um den Deutschunterricht)

これらのテーマに対して、Ulshöferが編集者として著した「編集者の問題設定」は現物確認済みである。

次に、雑誌『国語科教育』へのUlshöfer自身の寄稿論文を発表順に整理してみる。

凡例：1, 1, 1＝第1巻(1948), 第1号, 1ページ

6, 4, 100＝第6巻(1954), 第4号, 100ページ

<表3> 雑誌『国語科教育』へのUlshöferの寄稿論文一覧

1. 「ドイツ語教師の共同作品について」

(Über ein Gemeinschaftswerk der Deutschlehrer; 1, 1, 1)

2. 「言語学, 作文教育に対する提案と教授実験および詩の取り扱い」

(Anregungen und Lehrproben zu Sprachkunde, Aufsatzerziehung, und Behandlung der Dichtung; 1, 1, 6)

3. 「上級段階における『ドン・カルロス』」 ('Don Cxarlos' auf der Oberstufe; 1, 1, 74)

4. 「ヘルダーリン:『朝』と『せき止められた流れ』」

(Hölderlin: 'Des Morgens' und 'Der gefesselte Strom'; 1, 2/3, 35)

5. 「『共同精神』概念の根源と本質―上級段階に対する一つの授業対象」
(Über Ursprung und Wesen des Begriffs 'Gemeinsinn' - ein Unterrichtsgegenstand für die Oberstufe; 1, 4, 68)
6. 「高等学校の役割の刷新に対して作文の授業はどのように貢献することができるか？」
(Was kann der Aufsatzunterricht beitragen zur Neubestimmung über die Aufgaben der höheren Schule?; 1, 5, 5)
7. 「あなたはどのようにそのアビトゥア作文を評価しますか？」
(Wie beurteilen Sie diesen Reifeprüfungsaufsatz?; 1, 6, 95)
8. 「上級段階におけるシュティフターの『高林』」
(Stifters 'Hochwald' auf der Oberstufe; 1, 7, 6)
9. 「アビトゥア作文の評価に関して. ドイツ語教師共同の試みを実用化. Friedrich Vogt 氏の模範的校正を用いて」
(Zur Beurteilung von Reifeprüfungsaufsätzen. Auswertung eines gemeinsamen Versuchs der Deutschlehrer. Mit Musterkorrektur von Friedrich Vogt; 1, 8, 84)
10. 「生の理論としての作文の授業. 第12学年の例を用いて」
(Aufsatzunterricht als Lebenslehre, mit Beispielen aus der Unterorima; 2, 1/2, 45)
11. 「19世紀の文芸における人間像の転換. 詩人による人間描写に基づいた, 上級段階での文体考察」 (Der Wandel des Menschenbildes in der Dichtung des 19. Jahrhunderts. Stilbetrachtungen auf der Oberstufe an Hand der dichterischen Menschenzeichnung; 3, 6, 4)
12. 「口頭による内容報告から文字による内容報告へ. 第4学年の例」
(Von der mündlichen zur schriftlichen Inhaltsangabe in Klasse4; 4, 3, 35)
13. 「読本―方法上の新地. 問題設定の手ほどき」
(Das Lesebuch - methodischen Neuland. Einführung in die Fragestellung; 4, 4, 5)
14. 「学校における現代の散文. 予備的考察」
(Prosadichtung der Gegenwart in der Schule. Eine Vorbetrachtung; 4, 6, 5)
15. 「私たちは第5学年の教室で『黒色のガレー船』を放送劇に変形する」
(Wir formen in Klasse 5 'Die Schwarze Galeere' zu einem Hörspiel um; 5, 1, 61)
16. 「中級段階における戯曲. 方法論に対する予備考慮」
(Das Drama auf der Mittelstufe. Vorüberlegungen zu einer Methodenlehre; 6, 3, 5)
17. 「文学の専門研究. 幾つかの経験とテーマ設定に対する指導原理」
(Die literarische Facharbeit. Erfahrungen und Leitsätze zur Themenstellung; 6, 4, 100)

18. 「現代の散文に見られる現実の捉え方. トーマス・マンの『ベニスに死す』, カフカの『変身』, ボルヒャルトの『短編集』で表されているものを, ゲーテの『ヘルマンとドロテア』と比較」 (Die Wirklichkeitsauffassung un der modernen Prosadichtung. Dargestellt an Manns 'Tod in Venedig', Kafkas 'Verwandlung', Borcherts 'Kurzgeschichten', verglichen mit Goethes 'Hermann und Dorothea'; 7, 1, 13)
19. 「散文における叙事的状況と象徴的出来事. シュトルムの『みずうみ』を中心に」 (Epische Situation und symbolisches Ereignis in der Prosadichtung. Dargestellt an Storms 'Immensee'; 8, 3, 37)
20. 「初級段階における表現形成の指導」 (Anleitung zum Gestalten auf der Unterstufe; 9, 6, 71)
21. 「映画教育と放送劇活動は, ギムナジウムのドイツ語教育においてどのような空間を要求することができるか?」 (Welchen Raum können Filmerziehung und Hörspielarbeit m Deutschunterricht der Gymnasien beanspruchen?; 10, 3, 8)
22. 「短編を用いて学習する際の, 授業上の諸問題」 (Unterrichtliche Probleme bei der Arbeit mit der Kurzgeschichte; 10, 6, 5)
23. 「ドイツ語の授業の中で18世紀を取り扱う場合の授業上の諸問題」 (Unterrichtliche Probleme bei der Erarbeitung des 18. Jahrhunderts im Deutschunterricht; 11, 3, 5)
24. 「ドイツ語の授業における共同作品. 初級段階に対する例を用いた作業計画」 (Das Gemeinschaftswerk im Deutschunterricht. Ein Arbeitsprogramm mit Beispielen für die Unterstufe; 12, 4, 5)
25. 「コミックスの撲滅. 第5～7学年における文学的評価の基本的問題入門」 (Bekämpfung der Comics. Eihführung in elementale Fragen der literarischen Wertung im 5. bis 7. Schuljahr; 13, 6, 31)
26. 「初級段階のドイツ語の授業における愉快的物語. ほら吹き童話, シルダの住民の愚行, オイレンシュピーゲル, 悪童物語に対する方法上の考慮」 (Lustige Geschichten im Deutschunterricht der Unterstufe. Methodische Überlegungen zu den Lügenmärchen, Schildbürgerstreichen, Eulenspiegel- und Spitzbudengeschichten; 15, 5, 24)
27. 「ドイツ語作文を評価する際に, どの程度の客観性が達成されるのか? 統計的資料の報告」 (Welcher Grad von Objektivität läßt sich bei der Beurteilung deutscher Aufsätze erreichen? Miteilung statistischer Unterlagen; 15, 5, 104)

28. 「指導要領はドイツ語の授業をどこへ導くのか？ レールプランに反映されたドイツ語の授業の歴史」 (*Wohin steuern die Richtlinien den Deutschunterricht? Die Geschichte des Deutschunterrichts im Spiegel der Lehrpläne*; 16, 5, 104)
29. 「第9および10学年における解釈作文入門」
(*Einführung in den Interpretationsaufsatz im 9. und 10. Schuljahr*; 17, 1, 44)
30. 「民主主義時代のドイツ語の授業」
(*Der Deutschunterricht im Zeitalter der Demokratie*; 17, 3, 5)
31. 「ドイツ語の授業における技術時代の言語と文学」
(*Sprache und Literatur des technischen Zeitalters im Deutschunterricht*; 17, 6, 5)
32. 「読本を構築するための教授学的諸原理」
(*Didaktische Grundsätze zum Aufbau des Lesebuchs*; 18, 4, 9)
33. 「二つのドイツ, フランス, スウェーデンにおける文学の授業」
(*Der Literaturunterricht in beiden Teilen Deutschlands, in Frankreich und in Schweden*; 19, 1, 5)
34. 「中級段階における社会連関的作文と上級段階における社会学的作文」
(*Der sozialbezogene Aufsatz auf der Mittelstufe und der soziologische Aufsatz auf der Oberstufe*; 19, 3, 22)
35. 「全体的な言語教育に用いられるディクテーション. 授業の‘プログラミング’に対する寄与」 (*Das Diktatschreiben im Dienst einer ganzheitlichen Spracherziehung. Ein Beitrag zur ‘Programmierung’ des Unterrichts*; 19, 3, 76)
36. 「ドイツ語の授業における生産的思考と美的創造的形成」
(*Produktives Denken und schöpferisches Gestalten im Deutschunterricht*; 19, 6, 5)
37. 「ドイツ語の授業における言語学の基本概念と美学の基本概念の修得」
(*Die Erarbeitung sprachlicher und ästhetischer Grundbegriffe im Deutschunterricht*; 20, 4, 7)
38. 「マスメディア利用の指導」
(*Anleitung der Schüler zum Gebrauch der Massenmedien*; 21, 1, 5)
39. 「ギムナジウムの上級段階のドイツ語の授業は、どの程度改革する必要があるのか？ 専門家の間のアンケートに対する解説」 (*In welchem Umfang ist der Deutschunterricht der gymnasialen Oberstufe reformbedürftig? Erläuterungen zu einer Umfrage unter den Fachleuten*; 21, 2, 108)

40. 「ギムナジウムの上級段階のドイツ語の授業は、どの程度改革する必要があるのか？」
(*In welchem Umfang ist der Deutschunterricht der gymnasialen Oberstufe reformbedürftig?*
Erläuterungen zu einer Umfrage unter den Fachleuten; 21, 2 別巻)
41. 「協同による授業計画立案を通した民主的授業スタイルの創造」
(*Schaffung eines demokratischen Unterrichtsstils durch kooperative Unterrichtsplanung*;
21, 6, 5)
42. 「社会学的文学考察ードイツ語の授業における政治教育の活動領域」
(*Soziologische Literaturbetrachtung - ein Arbeitsfeld der politischen Bildung im Deutsch-*
unterricht; 23, 2, 5)
43. 「ドイツ語の授業における政治教育. 政治的に方向づけられた教授学の三つのモデル」
(*Politische Bildung im Deutschunterricht. Drei Modelle einer politisch orientierten Didaktik*;
24, 2, 5)
44. 「政治教育に用いられるインタビュー. 可能性, 目標, 問題点」
(*Das Interview im Dienste der politischen Bildung. Möglichkeiten, Ziele, Probleme*;
24, 5, 13)
45. 「社会批判的文学ードイツ語の授業における社会批判的文学に対する批判ー批判の教育
の諸問題」 (*Gesellschaftskritische Literatur - Kritik an der gesellschaftskritischen Literatur*
im Deutschunterricht - Probleme einer Erziehung zur Kritik; 25, 2, 5)
46. 「テーマによって導かれるドイツ語の授業か, あるいはテストによって導かれるドイツ
語の授業か. 授業の組織化に対する学習目標分類の意味」 (*Thema- oder testgesteuerter*
Deutschunterricht. Die Bedeutung der Lernzieltaxonomien für die Unterrichtsorganisa-
tion; 25, 4, 135)
47. 「二つのドイツにおける読み物の規範についての比較的展望ーAnnemarie Kleinerとの共
同研究」 (*Vergleichende Übersicht über den Lektürekanon in beiden Teilen Deutsch-*
lands - Gemeinsam mit Annemarie Kleiner; 19, 1, 38)
48. 「書く行為の理論とコミュニケーションの雛形あるいは文体形式の類型」
(*Die Theorie der Schreibakte und die Typologie der Kommunikationsmuster oder Stilformen*;
26, 1, 6)
49. 「改革後の上級段階における文学の授業の組織化. 段階的計画モデルを作成する際の問
題性」 (*Organisation des Literaturunterrichts auf der reformierten Oberstufe. Die Proble-*
matik der Erstellung von Modellen für Stufenpläne; 26, 4, 7)

50. 「ウィットー論理に対する抵触. 論理学・論証理論入門. 第9学年の教育課程」
(Witze - Verstöße gegen Logik. Einführung in Logik und Argumentationslehre. Ein Lehrgang im 9. Schuljahr; 27, 2, 26)
51. 「ドイツ語の授業に向けられた10のアンチテーゼ(H. Waltherの寄稿論文に対する反論)」
(10 Gegenthesen zum Deutschunterricht - Entgegnung auf den Beitrag von H. Walther; 28, 3, 105)
52. 「生徒作文の別の評価も可能ではないか? (Th. Pelsterの寄稿論文に対する反論)」
(Ist nicht auch eine andere Beurteilung des Schüleraufsatzes möglich? - Entgegnung auf den Beitrag von Th. Pelster; 28, 4, 105)
53. 「機能的な文法の授業. 緊急の調査・研究プログラムに対する覚え書き」
(Funktionaler Grammatikunterricht. Bemerkungen zu einem vordringlichen Untersuchungs- und Arbeitsprogramm; 29, 1, 5)
54. 「連邦共和国における改革後の上級段階の課程システムにおける授業に対する二つの異なる構想. 一つの弊害か? (Rocheの寄稿論文に対する反論)」
(Zwei verschiedene Konzepte von Unterricht im Kurssystem der reformierten Oberstufe in der Bundesrepublik. Ein Mißstand; 29, 4, 95)
55. 「30周年を迎えた『国語科教育』. 各号あるいは個々の寄稿論文を読者の期待により密接に対応させるための幾つかの提案」
(‘Der Deutschunterricht’ zu Beginn vierten Jahrzehnts seines Bestehens. Vorschläge zu einer engeren Anpassung der Hefte oder einzelner Beiträge an die Lesererwartung; 30, 1, 3)
56. 「第7学年におけるウィットを用いた試み. 論理学および論証理論の基本概念の手ほどき (No.50の継続)」
(Versuche mit Witzen im 7. Schuljahr. Einführung in Grundbegriff der Logik und Argumentationslehre, DU 27(1975), Heft 3; 30, 1, 34)
57. 「ドイツ語科には相対立する立場はあるが, 極度に意見の分かれる指導要領はない!」
(Kontroverse Positionen, aber keine allzu stark divergierenden Richtlinien im Dach Deutsch!; 30, 1, 114)
58. 「連邦共和国におけるゼクンダ段階Ⅰの収斂的ドイツ語科レールプラン. ドイツ語科レールプランの理論. 課題と可能性」 (Konvergierende Deutschlehrpläne für die Sekundarstufe I in der Bundesrepublik. Theorie der Deutschlehrpläne. Aufgabe und Möglichkeiten; 30, 3, 51)

59. 「教師が慎重な革新を行うようにレールプランが励ますことは、どのように達成されるか？ 文法の授業の例」 (Wie läßt sich erreichen, daß Lehrpläne die Lehrer zu besonderen Innovationen ermuntern? Beispiel: Grammatikunterricht; 30, 3, 70)
60. 「諸教科の協同から何が生じているか？ 疎かにされている教授学の原則を実現するための幾つかの提案」 (Was ist aus dem Zusammenspiel der Fächer geworden? Vorschläge zur Verwirklichung eines vernachlässigten didaktischen Prinzips; 31, 1, 101)
61. 「テキスト文法, 話し方教育, 聞き方教育」
(Textgrammatik, Sprecherziehung, Hörerziehung; 32, 1, 21)
62. 「読者の皆さんとのお別れ. 雑誌『国語科教育』-100年の3分の1」
(Abschied von den Lesern. Ein Drittel Jahrhundert 'Der Deutschunterricht'; 32, 6, 4)
63. 「ドイツ語科における授業設計の対照的なモデル」
(Konstrastive Modelle zur Unterrichtsplanung im Fach Deutsch; 32, 6, 24)
64. 「連続と転換. 1945年以後の小説に見られる人間と社会. 文学的人間描写の転換. 第12学年発展コースに対するモデル. 『技術者としての人間』, 『道化の顔つき』, 『大講堂』, 『クリスタ・T女史についての省察』を例に」
(Kontinuität und Wandel. Mensch und Gesellschaft in Romanen nach 1945. Der Wandel der literarischen Menschenzeichnung. Modell für einen Leistungskurs auf Jahrgangsstufe 12. Dargestellt am Beispiel von "Homo Faber", "Ansichten eines Clowns", "Die Aula", "Nachdenken über Christa T."; 32, 6, 124)
65. 「ドイツ語の授業の理論と実践の進展について. Kasper H. Spinner氏の論文「詩的に書くことと発達過程 (『国語科教育』 34, 4, 5-20; 1982)に対する好意的なコメント」
(Über das Fortschreiten der Theorie und Praxis des Deutschunterrichts. Freundliche Anmerkungen zu Kasper H. Spinners Aufsatz "Poetisches Schreiben und Entwicklungsprozeß" (DU 34, Heft 4, 1982, S.5-20); 35, 2, 107)
66. 「Wilhelm Heinrich Wackenroder: 作曲家 Joseph Berglinger の一風変わった音楽人生. 文芸の構造原理としての対立関係」
(Wilhelm Heinrich Wackenroder: Das merkwürdige musikalische Leben des Tonkünstlers Joseph Berglinger. Polarität als Bauprinzip der Dichtung; 39, 1, 58)

「国語科教育」寄稿論文は現物確認済みである。

1. 1. 2. 2. 「ドイツ・ゲルマニスト連盟会報」

(Mitteilungen des Deutschen Germanistenverbandes)

Ulshöferは、1954年に設立されたドイツ・ゲルマニスト連盟(Deutscher Germanistenverband)の副議長を1958年度まで務め、その「会報」に「学会あいさつ」を含め次のものを寄稿している。

<表4> 「ドイツ・ゲルマニスト連盟会報」寄稿論文一覧

*1954年度(初年度)

No.1: 「連邦共和国のドイツ語教師の皆さんへ! 【ドイツ・ゲルマニスト連盟会則】の協同起草」 (An die Deutschlehrer der Bundesrepublik! Satzung des Germanistenverbandes. Mitverfasser)

No.2: 「ドイツ語の授業の再編成に対する提案」
(Vorschläge zur Neugestaltung des Deutschunterrichts)

No.3: 「ゲルマニスト会議ニュールンベルク大会で行われるドイツ語教師による発表の中心テーマ」 (Leitgedanken der Vorträge der Deutschlehrer auf der Germanistentagung in Nürnberg)

No.4: 「ドイツ・ゲルマニスト連盟会議ニュールンベルク大会、1954年9月28日の副議長のあいさつ、ニュールンベルク大会ドイツ語科部会主任の論評」
(Tagung des Deutschen Germanistenverbandes in Nürnberg. Ansprache des zweiten Vorsitzers am 28. September 1954. Besprechung der Fachleiter für Deutsch auf der Nürnberger Tagung)

*1955年度

No.2: 「州および地区組織への回状」 (Rundschreiben an die Landes- und Bezirksverbände) 【連邦ドイツ語教師連盟会則】の起草
(Entwurf einer Satzung für die Vereinigung der Deutschlehrer der Bundesrepublik)

No.3: 「フランクフルト大会(1956年10月1~6日)の準備」
(Vorbereitung der Frankfurter Tagung 1.-6. Oktober 1956)

*1956年度

No.1: 「正書法改革に対する連盟の態度表明: 回状の成果」 (Die Stellungnahme des Verbandes zur Rechtschreibreform: Ergebnis einse Rundschreibens)

No.2: 「連盟秋季大会(トリア)の案内」
(Einladung zu Herbsttagung des Verbandes - Trier)

- No.4 : 「ドイツ・ゲルマニスト連盟フランクフルト大会. 副議長開会のあいさつ」
(*Tagung des Deutschen Germanistenverbandes in Frankfurt. Eröffnungsansprache des zweiten Vorsitzers*)

*1957年度

- No.1 : 「訂正とおわび」 (*Eine Berichtigung*)

*1958年度

- No.1 : 「1958年度ドイツ・ゲルマニスト連盟ハンブルク大会案内」
(*Einladung zur Tagung des Deutschen Germanistenverbandes in Hamburg 1958*)
No.3 : 「1959年度春／夏期ドイツ語教科主任会議への助言」
(*Hinweise auf die Tagung der Fachleiter für Deutsch im Frühjahr/Sommer 1959*)
No.4 : 「ハンブルク大会. 副議長あいさつ」
(*Hamburger Tagung. Ansprache des zweiten Vorsitzers*)

同「会報」は、未だ現物を確認できていない。

1. 1. 2. 3. 他の編者による論文集への寄稿論文

<表5> 他の編者による論文集への寄稿論文一覧

-
1. 「国語科口述試験に対する提案」—(*Vorschläge für die mündliche Reifeprüfung in Deutsch*, In: Schola. Monatsschrift für Erziehung und Bildung. Offenburg/ Mainz: Lehrmittel-Verlag, 1948, Heft 1, 3. Jahrgang, S.47 ff.)
 2. 「母語と教養生活」—(*Muttersprache und Bildungsleben*, In: Pädagogische Provinz. Frankfurt: Diesterweg, 1951, S.397 ff.)
 3. 「Friedrich Gottlieb Klopstock : 春の祭り」—(*Frühlingsfeier*, In: Die deutschen Lyrik. Form und Geschichte. Interpretation vom Mittelalter bis zur Frühromantik. Düsseldorf: Baghel, 1956)
 4. 「読本と交わるための教授学的基本形式」—(*Didaktische Grundformen für den Umgang mit dem Lesebuch*, In: Dienendes Wort - Eine Festschrift für Ernst Bender zum 70. Geburtstag. Betreut von Walter Franke. Karlsruhe: Braun, 1959)
 5. 「文芸を解明する際に、学校はどのような可能性を持っているのか？」—
(*Welche Möglichkeiten hat die Schule bei der Erschließung von Dichtung?*, In: Deutsche Auslandsgesellschaft: Methodik und Didaktik im Deutschunterricht. Bericht einer Tagung

für Lehrer aus dem Norden und Deutschland. 31. Juli bis 7. August 1964 in Lübeck.
Situationsberichte. Thesenreferate. Diskussion. Lübeck: Sekretariat der Deutschen Aus-
landsgesellschaft, 1964)

6. 「上級段階のドイツ語の授業における集中の形式」－(*Formen der Konzentration im Deutschunterricht der Oberstufe*, In: Germanistik in Forschung und Lehre. Vorträge und Diskussionen des Germanistentags in Essen vom 21. Bis 25. Oktober 1964. Hgg. von Rudolf Henß und Hugo Moser. Berlin: Erich Schmidt Verlag, 1965)

- ◎ 7. 「ドイツ語の授業における政治教育の教授学の基本的特徴」－(*Grundzüge der Didaktik der politischen Bildung im Deutschunterricht*, In: Sprache und Politik. Schriftenreihe der Bundeszentrale für politische Bildung. Heft 91. Hg.: Bundeszentrale für politische Bildung. - Vorträge und Materialien einer Arbeitstagung der Bundeszentrale für politische Bildung vom 8. - 13. März 1971. Bonn: Bundeszentrale für politische Bildung, 1971)
8. 「“賛否両論”：ヘッセン州学習指導要領への批判. 1973年10月12～14日にバード・ボールで開かれた新教アカデミーで行った, “物議を醸しているドイツ語の授業の学習指導要領”というテーマの講演」－ (“*Pro und Contra*”: Kritik der Hesseischen Rahmenrichtlinien. Vortrag auf einer Tagung der evangelischen Akademie Bad Boll vom 12. - 14. Oktober 1973 zum Thema “Rahmenrichtlinien für den Deutschunterricht in der Diskussion”, In: Materialdienst zur Tagung von 12. - 14. Oktober 1973 Bad Boll, 1973)
9. 「優秀なドイツ語の成績－それに両親はどのように寄与することができるか」
(Anne-marie Kleinerと共同)－(*Eine Gute Deutschnote - was Eltern dazu beitragen können*, In: Mit der Schule leben zwischen 10 und 16. Ein Handbuch: Rat in Erziehungsfragen. Stuttgart: Klett 1975)
10. 「ドイツ語の授業の教授学」－(*Didaktik des Deutschunterrichts*, In: Handlexikon zur Literaturwissenschaft. Hgg. von Dieter Krywalski. München: Ehrenwirth, 2. Aufl. 1976)
11. 「ドイツ語の授業の中のマルクス主義. コールハンマー社から刊行された論文集の目標設定. 雑誌 “Diskussion Deutsch” (1977年35号) に載せられたChrista Bürger氏の論文『シュトゥットガルトの小ゼミナール “ドイツ語の授業の中のマルクス主義” に対するコメント』と議論する代わりに」－ (*Marxismus im Deutschunterricht. Zielsetzung des im Kohlhammer-Verlag, Stuttgart, erscheinenden Sammelbandes. Anstelle einer Auseinandersetzung mit Christa Bürgers “Anmerkungen zum Stuttgarter Komoaktseminar ‘Marxismus im Feutschunterricht’” in DD 35, 1977*, In: Diskussion Deutsch, Heft 37, Oktober 1977. Frankfurt/M.: Diesterweg, 1977)

12. 「ゼクンダ段階Ⅰにおける、人間学的に方向づけられた言語考察と多機能的な文法の授業」－ (*Anthropologisch orientierte Sprachbetrachtung und polyfunktionaler Grammatikunterricht auf der Sekundarstufe I*, In: Theodor Diegritz (Hg.): *Diskussion Grammatikunterricht. Reflektion über Sprache und Kommunikation im Deutschunterricht*. München: Fink, 1980)
 13. 「ゼクンダ段階Ⅰにおける機能的な文法の授業. 教科の統一性を保障し, その有効性を高めるための学習プログラム」－ (*Funktionaler Grammatikunterricht auf Sekundarstufe I. Ein Arbeitsprogramm zur Sicherung der Einheit des Faches und zur Erhöhung seiner Wirksamkeit*, In: *Handbuch Deutschunterricht. Band 1*. Hrsg. von Peter Braum und Dieter Krallmann. Schwann, 1983)
 14. 「ゼクンダ段階Ⅰ・Ⅱにおける現代の抒情詩. なぜ, そしてどのように? 三つの教育課程の教材付き」－ (*Lyrik der Gegenwart auf Sekundarstufe I und II. Wozu und wie? Anhang: Materialien für drei Lehrgänge*, In: *Zeitgenössische Lyrik in der Schule*. Hgg. von Lothar, Jordan, Axel Marquardt, Winfried Woeslerl. Münster: Aschendorf 1984)
 15. 「“実践志向的で科学的なドイツ語教員養成” とは何を意味するのか?」－ (*Was heißt “praxisorientierte wissenschaftliche Deutschlehrerausbildung?”*, In: *Reform am Ende? Zur praxisorientierten wissenschaftlichen Lehrerausbildung am Beispiel der Deutschlehrerausbildung*. Hgg. von Hans Dieter Erlinger/ Peter Faigel/ Wolfgang Lippke/ Wolfgang Popp. Frankfurt/M.. Bern. New York: Peter Lang, 1984)
 - ◎16. 「今日の協同的国語科授業. ドイツ語科における理論と実践の関係について」－ (*Kooperativer Deutschunterricht heute. Über das Verhältnis von Theorie und Praxis im Fach Deutsch*, In: *Jahrbuch der Deutschdidaktik*. Hgg. von Harro Müller-Michaels. Tübingen: Narr, 1985)
 - ◎17. 「ドイツ語教授学における敵対者像とステレオタイプー “PRAXIS DEUTSCH” 89号の特集 “ドイツ像” の基調論文に対して」－ (*Feindbilder und Stereotypen in der Deutschdidaktik. Zum Basisartikel “Deutschlandbilder” in Praxis Deutsch 89*, In: *PRAXIS DEUTSCH*, 91, 15. Jahrgang, September 1988. Seelze: Erhard Friedrich Verlag, 1988)
-

1. 1. 3. 中等国語教科書

Ulshöfer編の中等国語教科書は、1971年にドイツ最大手の教科書出版社の一つであるシュレーデル教科書出版(Schroedel Schulbuchverlag)から、まずギムナジウム上級段階(第11～13学年)に対して『学習読本国語 ゼクンダ領域Ⅱ(Arbeitsbuch Deutsch. Sekundarbereich Ⅱ)』の名称で、巻1言語編読本「言語と社会(Sprache und Gesellschaft)」, 巻2文学編読本「文学と社会(Literatur und Gesellschaft)」という二巻本の形で刊行された(Ludwig Dietz, Joachim Goth, Annemarie Kleiner, Karl Heinz Wagner, Siegfried Weinmannらが共同編集者)。その後、1979年の小さな改訂を経、1994年の全面改訂で『テキストを用いた学習 SⅡ(Arbeit mit Texten SⅡ)』という名称の一巻本になった。

そもそも、『テキストを用いた学習』の名称は、上級段階向けの『学習読本国語』をシリーズ化した初級・中級段階(第5～10学年)向け教科書に与えられたものである(Winfried Bauer, Hans Jürgen Busch, Ingrid Ulshöfer, Ulrich Wildenhof, Gerhart Wolff, Heinrich Wüboltが共同編集者)。その初級・中級段階向け教科書『テキストを用いた学習』は、1977年から79年にかけて、二学年合本計3巻の体裁で初版が刊行され、1987年から89年にかけて改訂がおこなわれ、1994年の改訂の際に、各学年分冊計6巻に改められ、先の上級段階改訂版と一貫したシリーズを形成するに至った。

また、初期の構想では、上級段階向け教科書の二つの読本それぞれに対応させる形で、初級・中級段階向け教科書も言語編と文学編の二種類の教科書を準備する予定であったが、言語編教科書として編集された『言語・話すこと・書くこと』(Sprache. Sorechen. Sch-reiben; Bernd Arens, Peter Kern, Gerhard Menzel, Friedel Schardt, Karin Storck und Gerhart Wolffが協同編集者; 1979)は、それが言語活動単元を基調としていたため、旧西ドイツの全ての州に採用を拒否され、実際にギムナジウムで用いられることはなかった。したがって、文学編教科書の性格を持つ『テキストを用いた学習』だけが刊行された。

<表 6> Ulshöfer編の中等国語教科書一覧

○『学習読本国語 ゼクンダ領域Ⅱ』(Arbeitsbuch Deutsch. Sekundarbereich Ⅱ)

巻1: 「言語と社会」(Sprache und Gesellschaft)および「授業モデル」(教師用指導書)

巻2: 「文学と社会」(Literatur und Gesellschaft)および「授業モデル」(教師用指導書)

1971年の初版、1979年改訂版までは、上の二巻本の形を取り、1994年の改訂で『テキストを用いた学習 SⅡ』という名称の一巻本になる。

◎『テキストを用いた学習』(Arbeit mit Texten)

1977-79年の初版, 1987-1989年改訂版までは, 5/6, 7/8, 9/10学年のように二学年合本の形を取り, 1994年の改訂で各学年分冊6巻および上級段階の1巻, 全7巻のシリーズになる。

◎『言語・話すこと・書くこと』(Sprache. Sprechen. Schreiben)―初版1979年

Ulshöfer編の中等国語教科書は, それぞれの改訂版および教師用指導書の全てを現物確認済み。

1. 1. 4. その他国語科教育に関係するもの

Ulshöferは, 1954年から1957年までバーデン・ヴュルテμβルク州ドイツ語科レールプラン編集委員会委員長の任につき, 同州の【ドイツ語科学習指導要領】の編集にあたった。

また, 1970年代以後のドイツ中等国語科カリキュラムを方向づけた【ヘッセン州学習指導要領ドイツ語科】をめぐる, 専門家による公開討論「ヘッセン・フォーラム (Hessen Forum, 1974)」に参加した。

この二つの活動を示すのが, 次の<表7>の資料である。

<表7> その他国語科教育に関係するもの

1. 【バーデン・ヴュルテμβルク州ドイツ語科学習指導要領】

草案 1955年, 発効 1957年

(“Richtlinien für den Unterricht im Fach Deutsch”, In: Lehrpläne für die Gymnasien in Baden-Württemberg, 1957. Hgg. vom Kultusministeriums des Landes Baden-Württemberg)

◎ 2. 【ヘッセン州学習指導要領―ヘッセンフォーラム議事録】

(Rahmenrichtlinien Deutsch. Protokoll der Veranstaltung in der Reihe HESSENFORUM, hgg. von Eugen Kogen. Mit Beiträgen von Helmut Becker, Sybille Engel, Ludwig von Friedeburg, Karl Korn, Eberhard Lämmert, Werner Nicklis, Christian Schwarz-Schilling, Robert Ulshöfer, Peter Wapnewski, Konrad Wünsche, Frankfurt: Aspekte Verlag, 1974)

1. 2 ギムナジウム教育学に関するもの

1. 2. 1. ギムナジウム教育学に関する編著書

<表8> ギムナジウム教育学に関する編著書一覧

1. 『ギムナジウム教員の教育学養成. 高等学校の教育・陶冶理論の予備的考察』

(単著)

(Die pädagogische Ausbildung der Lehrer an Gymnasien. Vorbetrachtungen zu einer Erziehungs- und Bildungslehre der Höheren Schule.; Frankfurt/M.: Diesterweg 1959)

◎2. 『1945年以後のギムナジウムの歴史—資料と解説』 (共編著)

(Die Geschichte des Gymnasiums seit 1945. Dokumente und Kommentare; Mit Beiträge Wilhelm Georg Assmann, Wilhelm Flitner, Franz Hilker, Heinrich Holzapfel, Erich Langmann. Heidelberg: Quelle und Mayer, 1968)

◎3. 『ギムナジウムと社会科学—学校民主化の方法』 (共編著)

(Gymnasium und Sozialwissenschaften. Wege zur Demokratisierung der Schule;
Hrsg. in Verbindung mit Karlheinz Rebel. Heidelberg: Quelle und Meyer, 1967)

1. 2. 2. ギムナジウム教育学に関する寄稿論文

1. 2. 2. 1. 雑誌『ギムナジウムの授業. ギムナジウム教育学対する論文集』

(Der Gymnasialunterricht. Beiträge zur Gymnasialpädagogik; Klett, 1959—1967)

同誌はギムナジウムにおける諸教科に共通するテーマを扱うもので、Ulshöferによって1959年に創刊され、1967年までの9年間にわたって4シリーズ計21号が刊行された。同誌も『国語科教育』誌と同様、それぞれの号が一つの特集を組むものであり、刊行は不定期的になされた。シリーズⅡまではUlshöferが単独で編集を行い、シリーズⅢから、H. v. Hentigと連携し、E. Essen, A. Flitner, F. Hebel, E. Luther, F. Messerschmidt, K. Müller, H. Peeck, K. Püllen, J. Reitingen, A. Zahnの協力で編集が勤められた。

<表9>はそれぞれの号に設定されたテーマを一覧するものである。

<表9> 『ギムナジウムの授業』各号に設定されたテーマ一覧

・シリーズⅠ

- 第1号：高等学校における授業，教育，選抜．著者：Robert Ulshöfer
(Unterricht, Erziehung und Auslese in der Höheren Schule. Verfasser Robert Ulshöfer)
- 第2号：ゼクスタ（ギムナジウム第1学年）入学試験Ⅰ (Die Sexta-Aufnahmeprüfung Ⅰ)
- 第3号：初級段階の教授学Ⅰ (Didaktik der Unterstufe Ⅰ)
- 第4号：教科それぞれの任務と理想像の問題性Ⅰ
(Der Bildungsauftrag der Unterrichtsfächer und die Problematik der Leitbilder Ⅰ)
- 第5号：上級段階の改革：専門研究Ⅰ (Oberstufenreform: Die Facharbeit Ⅰ)

・シリーズⅡ

- 第1号：上級段階の改革：専門研究Ⅱと専門論文
(Oberstufenreform: Die Facharbeit Ⅱ und Fachaufsatz)
- 第2号：初級段階の教授学Ⅱ (Didaktik der Unterstufe Ⅱ)
- 第3号：上級段階の改革：教科の協同Ⅰ
(Oberstufenreform: Das Zusammenspiel der Fächer Ⅰ)
- 第4号：上級段階の改革：新しい学習の仕方 (Oberstufenreform: Neue Arbeitsweisen Ⅰ)
- 第5号：中級段階の教授学Ⅰ (Didaktik der Mittelstufe Ⅰ)

・シリーズⅢ

- 第1号：ギムナジウムへの入学（ゼクスタ入学試験Ⅱ）
(Der Übergang ins Gymnasium -Sextaaufnahme Ⅱ)
- 第2号：中級段階の教授学Ⅱ (Didaktik der Mittelstufe Ⅱ)
- 第3号：範例的教授・学習の不確かさと必要性
(Fragwürdigkeit und Notwendigkeit des exemplarischen Lehrens und Lernens)
- 第4号：初級－中級段階の教授学Ⅰ (Didaktik der Unter- und Mittelstufe Ⅰ)
- 第5号：初級－中級段階の教授学Ⅱ (Didaktik der Unter- und Mittelstufe Ⅱ)
- 第6号：教授学の課題についての教育科学上の議論
(Die erziehungswissenschaftliche Diskussion über die Aufgabe der Didaktik)

・シリーズⅣ

- 第1号：社会科学と学校 (Sozialwissenschaften und Schule)
- 第2号：新しいギムナジウムの形式 (Neue Gymnasialformen)
- 第3号：授業外での学習の仕方 (Außerunterrichtliche Arbeitsweisen)

第4号：範例的教授－集中－座標系の仲介

(Exemplarische Lehre - Konzentration - Vermittlung eines Koordinatensystems)

第5号：科学的授業の教授学に対する寄稿論文

(Beiträge zur Didaktik des wissenschaftlichen Unterrichts)

この雑誌に関しては、未だ現物を確認していないので、発行年を記すことができなかった。

次に、雑誌『国語科教育』へのUlshöfer自身の寄稿論文を発表順に整理してみる。

凡例：I, 1, 7＝シリーズI，第1号，7ページ。

<表10> 『ギムナジウムの授業』寄稿論文

-
1. 授業と選抜の相互作用 (Das Wechselspiel von Unterricht und Auslese; I, 1, 7)
 2. 高等学校の教授学の差し迫った課題
(Vordringliche Aufgaben einer Didaktik der Höheren Schule; I, 1, 26)
 3. 教育制度の内的・外的組織化の出発点としての助言，指導，選抜 (Beratung, Lenkung und Auslese als Angelpunkt der äußeren und inneren Organisation des Schulwesens; I, 1, 58)
 4. 雑誌『ギムナジウムの授業』の構成
(Der Aufbau der Schriftenreihe "Gymnasialunterricht"; I, 1, 75)
 5. 初級段階の教授学の課題。ゼクスタの授業の例を用いて
(Aufgaben einer Didaktik der Unterstufe mit Beispielen aus dem Sextaunterricht; I, 3, 5)
 6. ドイツ語の専門研究 (Die deutsche Facharbeit; I, 5, 59)
 7. 専門研究と専門論文 (Facharbeit und Fachaufsatz; II, 1, 5)
 8. 初級段階における諸教科の協同
(Das Zusammenspiel der Fächer auf der Unterstufe; II, 2, 5)
 9. 上級段階における諸教科の協同
(Das Zusammenspiel der Unterrichtsfächer auf der Oberstufe; II, 3, 19)
 10. 中級段階の教授学の基本的特徴 (Grundzüge einer Didaktik der Mittelstufe; II, 5, 7)
 11. 三つの教授学原則：範例的教授－集中－座標系の仲介 (Drei didaktische Prinzipien: exemplarische Lehre - Konzentration - Vermittlung eines Koordinatensystems; IV, 4, 5)
 12. 第5～10学年のギムナジウム教育の固有性
(Die Eigenart gymnasialer Bildung im 5. bis 10. Schuljahr; IV, 5, 9)
-

同誌への寄稿論文は、未だ現物を確認できていない。

1. 2. 2. 2. 他の編者による論文集への寄稿論文

<表11> 他の編による者の論文集への寄稿論文

-
1. 「*Un altro tipo di insegnanti. 1968年のローマでの講演*」－(Un altro tipo di insegnanti. In: L'aggiornamento del personale docente. Quaderno monografico 33 settembreottobre 1968 Ente Nazionale ACLI per l'Istruzione Professionale Roma, 1968)
 2. 一般教育をおこなう公教育の学校制度の再編および統一化を進める大綱的プランをめぐる議論に対する提案：「総合性大学あるいは単科大学に通じる四つの道筋」
(Zur Diskussion der 'Rahmenplans zur Umgestaltung und Vereinheitlichung des allgemeinbildenden öffentlichen Schulwesens'. Vorschlag von Robert Ulshöfer: *Vier Wege zu Universität oder Hochschule*; In: Empfehlungen und Gutachten des Deutschen Ausschusses für das Erziehungs- und Bildungswesen. Gesamtausgabe. Stuttgart: Klett, 1966, S.134)
 3. 「総合性ギムナジウム」
(*Das Gesamtgymnasium.*; In: Modellschulen in Baden-Württemberg. Konzeptionen und Beispiele konkreter Planung. Schriftenreihe des Kultusministeriums Baden-Württemberg zur Bildungsforschung, Bildungsplanung, Bildungspolitik. Reihe A Nr. 15. Villingen: Neckar-Verlag, Dezember 1968)
-

※「Robert Ulshöfer研究文献目録」覚え書き

本稿の結びとして、ここでは「Robert Ulshöfer研究文献目録」から窺える彼の研究の歩みを、「覚え書き」の形でまとめてみたい。

ドイツの崩壊後Ulshöferが国語科（ドイツ語科）教育を再構築し、発展させたその足跡を追う上で、まず注目すべきは雑誌『国語科教育』誌上での活動であろう。彼は同誌に対して、編集者として計131号のテーマ設定にあたり、また自らも66篇の論文を寄稿している。その内容は、国語科教育の部分領域の教材解釈・指導法の問題、国語科教育の方向性を指し示す全体的問題、国語科教育の基盤となる国語科内容学の問題といったように、国語科教育の多岐にわたる問題を時事的に、実践連関的に取り上げるものとなっている。

とりわけ、同誌の創刊から10年間は、作文教育を中心とした、比較的国語科教育の部分的問題に取り組むことが多かったが、1952年から『国語科教育法』の三巻本が刊行され始めてからは、同誌においても国語科教育の全体的問題を取り上げる傾向が強まった。その理由としては、『国語科教育法』という体系的な著作を通して、独自の国語科教育の構想をある程度全体的に捉えるに至ったと推察される。同書は、主に試補教員養成の手引き書として刊行されたが、広範囲かつ長期にわたって支持され、一再版状況が示すとおり一戦後ドイツの国語科教育の標準本となっていた。これら二つの仕事によって、すなわち部分と全体とを有機的に切り結ぶ研究を通して、Ulshöferは雑誌『国語科教育』の編集者のみでなく、一つの国語科教育プログラムの編集者の役割を果たすようになるのである。

それでは、彼が構想する国語科教育プログラムとはどのようなものであったか？ それは、彼が60年代の後半から一明確に、意識的に一着手した＜協同的国語科授業＞論に通じるものである。この研究プロジェクトは、彼が主任をしていたチュービンゲンの試補教員養成講座を中心に展開したものであり、70年代以降の彼の国語科教育論（国語教授学）の中核を形成するものである。

また、Ulshöferの国語教授学研究の歩みをたどる上で見逃せないのが、彼によるギムナジウム教育学に関する研究である。この研究を通して、彼は学校教育全体の中での国語科の役割を見据え、諸教科の協同を構想していく。この一般教授学および教科教授学的知見が、彼の国語科教育の構想を授業論のレベルにまで高めることに寄与しているのである。

これらのことから、冒頭で示したUlshöferの全体掌握的な存在性は、一方で国語科内部の部分と全体の間の、他方で国語科と超教科的なギムナジウム教育学との間の往復運動の中で際だってくるように思われる。そして、その往復運動を促進したものは、時代が国語科に要求する差し迫った問題や、彼の存在性ゆえに、彼に対して突きつけられた批判、彼をめぐる論争であったであろう。詳細な検討は、別の機会にゆずりたい。

—付記—

資料の収集に関しては、2回の訪問に際し、Ulshöfer教授にその大部分を快く提供していただき、さらには計20時間におよぶ個人講義をたまわった。記して謝意を表したい。